

電気主任技術者として今も続く電気屋人生

一般社団法人九州電気管理技術者協会会員
芹澤電気管理事務所 代表 芹澤 昇

私は、今から 43年前の1972年3月に千葉大学電気工学科を卒業して日産自動車に入社しました。一方、私と同様に大学の電気系学科で電気工学の基礎を学んだ人は、電機メーカーや電気機器メーカー、あるいは電力会社や電気工事会社、製造業などへ就職するのが一般的です。しかし、冒頭に述べましたように、私は製造業の自動車メーカーに就職して、工場設備のためのエネルギー供給と保全およびメンテナンスを担当しました。現役リタイア後の現在、これらの経験を活かして「電気保安管理事業」を個人で営み、「人生の二毛作目」を実践中です。

ところで、九州では大・中・小規模の太陽電池発電設備建設が盛んです。このため、電気技術者が不足気味です。私の周りの学生について最近気付いたことですが、電気工事関係企業を就職先を選ぶケースが増えています。これらの企業の中には、「電気工事士」や「電気主任技術者」の資格を、在学中に取得した学生に応募を望むというケースもあるそうです。

電力供給に関する社会システムの将来を考えてみますと、「再生可能エネルギー」と「電力貯蔵技術」を組み合わせた「分散型電源」としての、「エネルギーの地産地消」を具現する「マイクログリッド」が注目されています。それに加えて、「電力の自由化」が目前に迫っています。この理由は、東日本大震災と福島第一原発の過酷事故によって「大規模発電所」と「大規模送電網」の弱点が露呈したからです。さらに、欧米アジアの技術動向からみても、日本における「送電分離」は確実に進展し、かつ「スマートグリッド(次世代送電網)」の実現は必然です。したがって、電力管理のための電気技術者の需要がますます高まると容易に想像できるのです。

このような背景から、本講義では私のサラリーマン時代と現在の電気保安管理業務の経験に基づき、次の三つのテーマについてお話します。

- ① 製造業の電気設備メンテナンス部門での仕事について
- ② 電気主任技術者免状の取得方法について
- ③ 電気保安管理業務とは？ そして個人で営むには？

以上のお話が、これから社会人になる皆さんの将来を考える上での適切な助言となれば幸いです。

以上